

## 「環境適合設計の基礎と実践」

環境にやさしい製品って、何を考えればいいの？ 使える材料は変わるの？ 法律もあるの？ 新入社員からベテラン技術者まで、新しい“環境問題”にお悩みのあなたに、環境適合設計の手法・考え方をご紹介します。

主催: 日本設計工学会

企画: 研究調査部会

協賛(予定): 応用物理学会/機械技術協会/機械振興協会/軽金属学会/計測自動制御学会/自動車技術会/情報処理学会/精密工学会/電気加工学会/電気通信協会/電子情報通信学会/東京設計管理研究会/東京都金属プレス工業会/日本オブトメカトロニクス協会/日本金型工業会/日本機械学会/日本工学会/日本工作機械工業会/日本自動車工業会/日本塑性加工学会/日本ソフトウェア科学会/日本ダイカスト協会/日本鋳造工学会/日本溶接協会/日本ロボット学会

最近、環境問題に関する国民の意識も高まり、生産活動などにおいても、それまでの資源大量消費の生産から、環境に配慮した生産への転換が急務となってきています。製品やサービスを社会に提供する企業においては、その製品やサービスが、少なからず地球環境に影響を与えてることになるため、生産活動による環境への影響を削減することだけではなく、ライフサイクルのすべてを包括した環境影響の低い製品やサービスを設計し、持続可能な循環型社会システムを構成することが使命となっています。そのため、製品の設計から、調達、生産、流通、使用およびサービスの提供、廃棄に至るまでのラ

イフサイクル全般を捉えて、環境に対する影響のより低い製品やサービスを設計するという環境適合設計(DfE: Design for Environment)の考えが重要となってきています。

そこで本講習会では、第一線で活躍の講師の先生をお招きして、環境に優しい製品設計を実現するための考え方や技術動向、機器設計法について解説して頂きます。企業・研究機関・教育機関等で環境適合製品の設計・製品開発や教育に携っている方々の多数のご参加をお待ちしております。

日 時 平成 20 年 11 月 26 日(水), 10 時 30 分～16 時 40 分

会 場 埼玉大学東京ステーションカレッジ(〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 JRサピアタワー9階)

\*東京駅下車徒歩約1分

\*サピアタワーは厳重なセキュリティーチェックがあります。3階オフィス受付にて「当日入館カード」を受け取り、ご入館ください

会場 URL: <http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/tsc-guide.html>

司 会 縊貫啓一(埼玉大学), 伊藤治(安川シーメンス(株)), 川岸正武(東京設計管理研究会)

次 第

時 間	題 目	内 容	講 師
主催者挨拶			
10:30～12:00	循環型社会に対する設計技術者の対応	21世紀となり「環境」は私達の身近な問題となってきており、テレビや新聞・雑誌には毎日のように環境問題に対する企業の取り組みや、環境製品の紹介が行われております。こうした中、各企業は「循環型製品の開発」言い換えれば「環境に配慮した製品開発の実現」のための取り組みが行われていますが、今回は開発部門での取り組みについて紹介します。	東京設計管理研究会 コマツ エンジン・油機事業本部 (株)アイ・ピー・エー 企画・総括グループ 西山 洋一
昼 食			
13:00～14:30	シーメンスの環境のための技術革新: 設計技法と事例の紹介	シーメンスの環境技術は、製品だけではなく、発電所から工場・一般家庭にいたる電力ネットワークのすべてに渡ります。これらの製品や技術により、シーメンスのお客様は 2007 年だけで二酸化炭素の排出を 1 億 1400 万 t 減らすことができました。しかし、どうすれば環境にやさしく、かつ信頼性と価格を両立させた製品を提供することができるでしょうか？この講習会では、この難しい課題を解くための、シーメンスの設計ガイドラインと、実際の製品事例を紹介いたします。(講演は英語で行いますが、日本語で通訳を行います。)	シーメンス(株) 技術本部 部長 Dr. Peter Mertens (通訳: 伊藤治(安川シーメンス(株)))
14:30～14:40	休憩		
14:40～15:40	製品の含有化学物質管理の現状	各企業はREACHなどの製品含有化学物質規制への対応を求められています。含有化学物質情報の入手・蓄積・報告を適切に行い、設計者の業務負荷を軽減する仕組みが必要となっています。これまでのELV, RoHSなどへの取り組み、REACHへの取り組みを紹介します。	東京設計管理研究会 谷尾 誠
15:40～16:40	ライフサイクルを指向した製品の環境評価手法	昨今カーボンフットプリントなど製品の環境負荷情報の見える化が注目されている。製品の環境負荷は、製品を生産、使用する以外にも素材の生産や部品の加工、維持管理や廃棄においても発生するため、ライフサイクル全般を網羅することが過小評価を防ぎ、誤解の無い環境配慮設計を行うための重要な要件であるといえる。また、環境影響は温暖化のみでなく、化学物質、資源消費、廃棄物など、さまざまな側面があり、これらを包括的に取り扱うことも環境影響を適切に解釈する上で重要な事項であるといえる。本講演では、製品のライフサイクルという視点から環境影響を評価する手法とその利用動向について解説する。	武藏工業大学 環境情報学部 准教授 伊坪 徳宏

定 員: 50 名(先着順で定員になり次第締め切ります)

受講者: 企業で環境適合設計の導入をお考えの方々、学校で環境適合設計を学生に紹介される教員の方々、を想定しています。

参加費: 会員(賛助会員および協賛団体会員を含む)20,000 円、非会員 30,000 円(テキスト代含む)、学生会員 無料(ただし、資料ご入用の場合は、4,000 円をご負担ください)、学生非会員 6,000 円(テキスト代含む)

資 料: 資料のみ、または聴講者で 2 冊以上ご希望の場合、1 冊 4,000 円

申込締切: 平成 20 年 11 月 19 日(水)

申込方法: 郵便、Fax、または E-mail に「講習会(環境適合設計の基礎と実践)参加申込み」と題記し、(1)参加者氏名、(2)勤務先・所属部課名、(3)連絡先(郵便番号・住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス)、(4)会員資格、をご記入のうえ、下記申込先にお申込みください。

申込先: 日本設計工学会

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-22-17、セラミックスビル  
内、電話03-5348-6301、Fax03-5348-6280、  
E-mail: [jimukyoku@jsde.or.jp](mailto:jimukyoku@jsde.or.jp)